

2019年4月23日

形成外科にて治療を現在お受けになっている患者さん、  
ならびに過去に通院・入院された患者さんへ

### (臨床研究に関する情報)

当院では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、通常の診療で得られる画像検査結果などの診療情報を用いて行います。このような研究は、厚生労働省・文部科学省の「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」(平成26年文部科学省・厚生労働省告示第3号)の規定により、研究内容の情報を公開し、研究対象となる方等が拒否できる機会を保障することが必要とされております。この研究に関するお問い合わせ、拒否される場合などがありましたら、以下の連絡先・相談窓口へご照会ください。研究への検体及び診療情報の利用を拒否された場合も不利益を受けることはありません。また、この研究については、香川大学医学部倫理委員会の審議にもとづく医学部長の許可を得ています。

[研究課題名] 漏斗胸に対する手術の結果を、CT画像から作成した3次元力学モデルを用いたコンピューターシミュレーションにより、事後的に検証する研究

[研究機関の長] 香川大学医学部長

[研究責任者名・所属]

香川大学 医学部 形成外科・美容外科学講座 教授 永竿智久

[研究の目的]

胸郭の一部が変形している選定性疾患である漏斗胸に対しては、チタン製の金属バーを胸郭に装着する修正手術が行われます。しかしこの手術を行って得られる結果は、患者さんの年齢や性別に応じて大きく異なります。ある患者さんにおいては美しい胸郭の形が得られるのに、別の患者さんにおいてはあまり改善しない、といった事態がしばしば生じています。香川大学ではすべての患者さんに対して良い結果を出すために、手術前に、行う手術操作を詳細に検討して手術を行っております。周到な計画を練るためには、おのおのの患者さんに対してバーの装着を行った場合に、胸郭がどのような形になるのかをあらかじめ予測する必要があります。本研究においては、患者さんのCTデータから3次元コンピューターモデルを作成し、このモデルにおいて力学計算を行うことにより、手術に伴う胸郭の形態変化を予測するシステムを開発します。

[研究の方法]

○対象となる患者さん

先天性胸郭変形症(漏斗胸)の患者さんで、2015年1月1日から2020年3月31日の間に、香川大学付属病院で診察もしくは治療を受けた(受ける)患者さん。

○利用する検体・診療情報

検体: CT (computer tomography=コンピューター断層撮影) 画像データ

[研究組織]

香川大学医学部 永竿智久

この研究について、研究計画や関係する資料、ご自身に関する情報をお知りになりたい場合は、他の患者さんの個人情報や研究全体に支障となる事項以外はお知らせすることができます。

研究に利用する患者さんの個人情報に関しては、お名前、住所など、患者さん個人を特定できる情報は削除して管理いたします。また、研究成果は学会や学術雑誌や、香川大学形成外科 HP (<http://www.kms.ac.jp/~keisei/>) で発表されますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は利用しません。

[連絡先・相談窓口]

香川県木田郡三木町池戸 1750-1

香川大学医学部附属病院形成外科・美容外科

電話 087-891-2198 FAX 087-891-2199

担当医師 永竿智久